

龍体文字について

3月は、キク科の花粉症、PM2.5、黄砂の3大アレルギーで苦しんでいる方や、生活環境が変わるストレスで、免疫力が低下している方が多くおいでになりました。また、診療所入り口でのコロナチェックでも、知らない間に感染して抗体のある方が、お子さんや若い方で多かったと思います。このような日常の中、私たちに最大の衝撃を与えたのは、ウクライナ戦争です。一方的な理不尽な理由で、街を破壊され、子ども、女性、お年寄り、妊婦さんまで殺害され、地下に残された人々は飢えと寒さと恐怖に苛まれています。二度の世界大戦から私たちは学んだはず、と思いたいですが現実には、さらに核戦略による核の恐怖も広がっています。早くロシアの攻撃が終わり、ウクライナに春が来ますように祈ります。

前回は龍体文字との出会い、効果について少しお知らせしたのですが、その後、皆さんがいろいろと試して下さい、わかったことがありますので、お伝えしたいと思います。

龍体文字は5600年ほど前の日本人の文字でカタカムナ文字などのいくつかの神代文字の一つで、ウマシアシカビヒコジと言う神さまが作ったとされているそうです。弥生時代に漢字が入ってきて龍体文字は封印されたようです。こんなにエネルギーが強く、それぞれに意味があり、人々の身心を癒す文字がなぜ封印されたのか、私なりの考えですが、それは物質文明をしっかりと発展させ、理論的に物事をとらえ、考える力を獲得していくためにその強烈な文字が封印されたのではないかと、思うのです。では、なぜ今解かれたのか。それは皆さんお気づきのように様々な分野での物質文明の行き詰まりがみられますが、そのためではないかと思うのです。

この龍体文字、ある方にはとてもよく効果があり、一方、効かない方もおられるのです。一部ですが、解ったことがあります。それは、使い方なのです。解ったことの一つは、白い紙や布に黒のマジックで書いても上や下に黒い服を着ていると効果がほとんど無いようです。「闇夜にカラス」ですから、人体には文字の効果がわからなくなっているのです。また、模様が入っている服も効果が無くなる時があります。下着やシャツに書いても、皺になっていけば、違う文字として認識されます。もう一つは、症状を取り除くのがダメな場合です。私の経験ですが、何かの虫に刺されて、プックリ腫れました。とても痒いので、よし、今試そうと思い、「ぬ」の字を張ってみたが、何の効果も無い。たまらず引っ掻くと汁がでてスツと痒みがなくなりました。毒を外に出すのに、痒みは必要だったのだと気づきました。

龍体文字を使って、効果がみられない時はご相談ください。どんな問題があるのかご一緒に考えていきたいと思えます。

関心のあるは、森美智代さんの本をお読み下さい。

鈴木富美